

現状・課題

- 下水道の整備等に伴って東京湾の水質改善が進み、平成27年度には葛西海浜公園で海水浴の社会実験が実施された。
- 水質改善の着実な進展の一方で、雨天時に合流式下水道から排出される汚濁負荷や、富栄養化に伴う赤潮の発生などの課題が存在する。
- 東京2020大会では、お台場地区においてトライアスロン競技等の開催が予定されている。このことを踏まえ、東京湾の水質改善に向けた各種の対策を一層加速していく必要がある。

東京都下水道局の取組

1 合流式下水道の改善対策

貯留施設に加え早期に導入可能な高速ろ過施設を組み合わせることで、整備ペースを約2倍にアップし対策を推進。

■ 貯留施設の整備

- ・ 降雨初期の特に汚れた下水の貯留施設について、大会開催までに140万m³の整備を完了

■ 高速ろ過施設の整備

- ・ 汚濁物を2倍程度多く除去することが可能な高速ろ過技術を導入し、大会開催までに対策が必要な水再生センター6か所で整備を完了

経営計画2013 (H25~H27)
11万m³ (3.6万m³/年)



経営計画2016 (H28~H32)
36万m³ (7.2万m³/年)

■ 雨天時放流口へのスクリーンネットの増設

- ・ 下水道からの雨天時のごみなどの流出を抑制するため、大会開催までにお台場近隣の放流口にスクリーンネットを増設

■ 下水道施設の清掃体制強化

- ・ 下水道管に堆積した土砂やごみなどの重点的な清掃を実施

2 東京湾などに放流される下水処理水の水質改善

既存施設の改造により水質改善のスピードアップ

■ 準高度処理・高度処理の導入

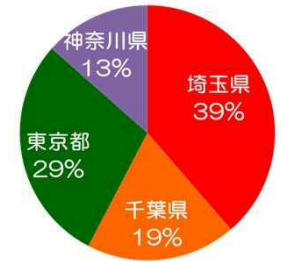
経営計画2016 (H28~H32) : 288万m³/日 ⇨ 430万m³/日 へ拡大

関係自治体の連携

- 東京湾の水質を改善するには、東京都の取組だけでなく、関係する全ての自治体が協力して、広域的な取組を進めることが重要。



東京湾におけるCODの都県別排出割合
(平成26年度)



※出典：「化学的酸素要求量、窒素含有量及びりん含有量に係る総量削減基本方針」
(環境省 平成28年9月)

国への要請

- 現在、「東京湾再生のための行動計画（第二期）」に基づき、東京湾再生に向けた取組が進められており、関係する自治体が協力して、広域的な取組を進めることが重要となっている。
- このことから、東京湾の水質改善に向け、関係自治体が取り組む以下の施策に対し、必要な財政措置を講じるなど、国が中心となって広域的な視点からその実施を推進していただきたい。

○下水道

合流式下水道の改善、高度処理の導入促進等

○雨水流出抑制

雨水貯留・雨水浸透施設の設置等